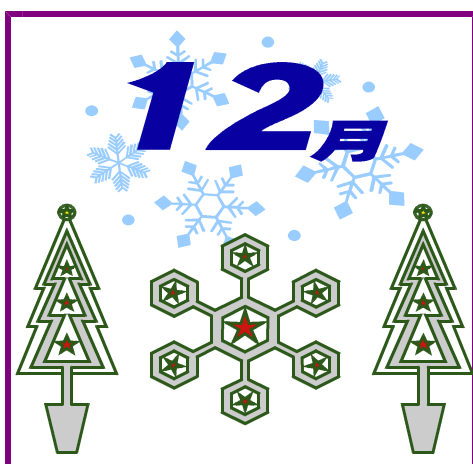


めぐみイエス・キリスト教会

2024年12月22日(日)クリスマス礼拝

午前10時より

週報「通算第737号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌82「牧人 羊を」	p. 112
【交読文】	No.49 イザヤ書40章(抜粋)	p. 918
【賛美Ⅱ】	新聖歌99「馬槽の中に」	p. 139
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【前回説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲「天より来られし」	
【聖書朗読】	ルカの福音書2章8節～20節(新約p. 110下段)	
【礼拝説教】	《Christmas・Message(御使いの役割とは?)》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌166「威光・尊厳・栄与」	p. 236
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

※本日の聖書箇所(ルカの福音書2章8節～20節)

●ポイント1. マリアに現われた御使いとは？

※ルカの福音書1章26節～31節「受胎告知」 (新約p.107)

1:26 さて、その六か月目に、御使いガブリエルが神から遣わされて、ガリラヤのナザレという町の一人の処女のところに来た。

1:27 この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリアといった。

1:28 御使いは入って来ると、マリアに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」

1:29 しかし、マリアはこのことばにひどく戸惑って、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。

1:30 すると、御使いは彼女に言った。「恐れることはありません、マリア。あなたは神から恵みを受けたのです。

1:31 見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。」

●ポイント2. マリアの婚約者ヨセフに現われた御使いとは？

※マタイの福音書1章18節～21節「夢において」 (新約p.1)

1:18 イエス・キリストの誕生は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人がまだ一緒にならないうちに、聖霊によって身ごもっていることが分かった。

1:19 夫のヨセフは正しい人で、マリアをさらし者にしたくなかったので、ひそかに離縁しようと思った。

1:20 彼がこのことを思い巡らしていたところ、見よ、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフよ、恐れずにマリアをあなたの妻として迎えなさい。その胎に宿っている子は聖霊によるのです。

1:21 マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。」

●ポイント3. 御使いの役割とは？

※ヘブル人への手紙1章14節「唯一の解釈から」 (新約p.438)

1:14 御使いはみな、奉仕する霊であって、救いを受け継ぐことになる人々に仕えるために遣わされているではありませんか。

◎先週のメッセージ【主イエスに仕える女たち】

《ルカは、主イエスと弟子たちと共に行動した女性たちの名前を書き記しています。最初に「マグダラのマリア」で、この女性は、七つの悪霊を宿していました。主が彼女を解放され、癒されました。

また彼女は、主の十字架のみ側にいました。そして、アリマタヤのヨセフが主の体を埋葬する時にも、墓までついて行きました。週の初めの日の朝、誰よりも早く園の墓に行き、そして、主イエスが復活されたそのお姿を最初に現わされたのも、彼女だったのです。彼女は、まさしくすべてを捧げて、主と弟子たちに仕えていたことがわかります。

また、ヘロデの執事クーザの妻ヨハンナとスザンナは、主イエスによって病いを癒され、マグダラのマリアと、ほぼ同じ行動をしていたことがわかります。彼女たちも、主イエスが復活された「週の初めの日の朝」に主の墓に行き、そこで御使いと出会い、ベタニアのマルタの家に潜んでいた、9人の使徒の所に報告に行きます。

また、スザンナは、ここにしか登場しませんが、当時のエルサレム教会では、かなり名の知られた重要な人物の可能性が高く、ルカはあえて名前をここに書き記したのではないかと考えられています。

ところで、ここに登場する「執事クーザ」ですが、ヘロデとは、バプテスマのヨハネを殺害した「ヘロデ・アンティパス」のことを指しています。おそらく、夫クーザから妻ヨハンナを通して、宮廷内の様々な出来事が、弟子たちに伝えられていたとも考えられます。

さて、「彼女たちは、自分の財産をもって彼らに仕えていた」と書かれている様に、主イエスと弟子たちの食事や洗濯などの身の回りの世話をしたと思われます。まさしく、裏方の仕事でもあります。しかし彼女たちの働きがあったからこそ、主イエスと弟子たちは、三年半にもおよぶ公生涯を全うすることが出来たと思われるのです。》

◎お知らせ

※12月29日は感謝礼拝を行ないます。2025年1月5日は新年礼拝を予定しております。どちらとも、平常通り午前10時からとなります。